

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R7	
(1)-1	学級経営	意識	88.9%	
		取組	81.5%	
(1)-2	生徒会・委員会活動	意識	89.4%	
		取組	71.8%	
(1)-3	学校行事	意識	93.9%	
		取組	78.0%	
(1)-4	校外・宿泊行事	意識	84.0%	
		取組	67.9%	
(1)-5	道徳教育	意識	87.5%	
		取組	76.3%	
(1)-6	挨拶、言葉遣い、 身だしなみ	意識	100.0%	
		取組	95.3%	
(1)-7	地域活動の参加	意識	89.0%	
		取組	63.4%	

（回答数）教職員：85 前回よりー10%

改善の方向性

○児童・生徒の意見を反映した委員会活動・学級活動をさらに進め、学校生活や地域活動等での活躍の場を広げていく。→縦割り活動、行事や委員会の企画・運営において、児童・生徒の意見をさらに取り入れていく。

○地域をフィールドとした学習や地域活動への参加機会の拡大を図っていく。

→地域の方の話を聞く会や地域清掃などの活動への参加を通して、地域の方とのコミュニケーションを図る機会を増やしていく。また、地域の教育資源を活用した学習の再構成に向けて検討していく。

1 豊かな人間性と社会性の育成

指標) ①自己有用感80% ②異年齢活動への参加態度80%
③地域・社会への貢献意識85% ④多様性の尊重意識85%

重点) 1 日々の学校生活の自治的活動で育てる
1) 児童・生徒の意見を反映した委員会・学校行事・学級経営の推進
2) 自己の役割を自覚し主体的に活動し責任を果たす委員会・学級活動の推進
2 地域から学び、地域の活動への参加で育てる
1) 地域行事・地域活動への参加や運営ボランティア経験の促進
2) 学級・学校運営や地域行事への参画による自己の生き方につながる学びの促進

主な取組と実施状況（●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他）

●自己申告当初申告で経営計画の重点事項に係る取組の申告を指示し面談で確認
◎児童・生徒会の一体的な活動と主体的な運営
◎生徒会と学校運営協議会委員の懇談会で地域サマーフェスタについて意見交換（5/14）
◎生徒会主催で定期考査前に自習教室を企画・運営し、延べ200名以上が参加（6/15・16）
◎サマーフェスタで児童・生徒会企画のゲーム大会を実施（8/22）
◎給食委員会（サッカーワールドカップ企画）、図書委員会（スタンプラリー）、SDGs委員会（スタンプラリークイズ）、7年学級委員会（がんばweek）等を企画・実施
◎デジタル委員会で1期児童に向けたクロームブックの使い方に関わる啓発を企画・運営
◎4年児童の発案でボールフェスタを企画・実施（9月以降）予定
○II期縦割り班活動POP作成
○いずみの森俳句大賞【地域の方部門】の企画・運営
○子安市民センター祭りに参加（手芸クラブ・工作クラブ・4年有志ダンス・5・6年有志ソーラン節）予定
○生活面についてクラスごとに達成具合を廊下に掲示する「頑張ろう月間」の実施 予定
◎応援団で9年生の応援歌作りや応援練習の生徒主体での運営

成果と課題（○：成果、●：課題）

指標達成率 ①72.9/80=91% ②91.8/80=114% ③57.6/85=67% ④90.4/85=106%

○経営計画の周知が概ね図れている。生徒の意見や声を活動に反映させることが徐々に浸透してきた。

○生徒・保護者のアンケート結果でも、学級経営、生活指導（自治力）、多様性の尊重意識、特色ある学校づくり（異年齢活動）の肯定的回答が多く、教職員の指導の成果がうかがえる。

●自己有用感の肯定的な回答が7割を超えているが、指標達成率が91%に止まっている。

●社会への参画意識が高い反面、地域社会への貢献意識・態度が5割前後であり改善の必要がある。現状があり、地域をフィールドとした活動や地域活動への参加機会の拡大を図る必要がある。

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R7	
9	学級経営	生徒	90.7%	
		保護者	92.3%	
13	学校運営（生徒の声の反映）	生徒	79.3%	
		保護者	66.7%	
5	多様性の尊重意識	生徒	90.4%	
		保護者	87.7%	
2	自己有用感	生徒	72.9%	
		保護者	74.2%	
7	生活指導（規範意識）	生徒	91.0%	
		保護者	93.0%	
8	生活指導（自治力）	生徒	91.5%	
		保護者	89.8%	
31	地域連携	生徒	81.1%	
		保護者	83.5%	
4	地域社会への貢献意識	生徒	57.6%	
		保護者	58.7%	
10	地域社会への貢献態度	生徒	48.8%	
		保護者	62.6%	
6	社会への参画意識	生徒	85.2%	
		保護者	85.0%	
30	特色ある学校づくり（異年齢活動）	生徒	91.8%	
		保護者	93.7%	

（回答数）児童・生徒：668 保護者：685

□ 実績

<学校行事への保護者等の来校数>
○大運動会（5/30） 1050名
○学校公開（4/25） 1243名
○いずみの森フェスティバル（10/24） 名
○道徳授業地区公開講座（1/16） 名
<地域活動への教職員・生徒の参加数>
○地域清掃（7/4） 教職員15名 児童・生徒180名 地域35名
○校内別室指導支援員 5名 学習等サポーター 11名
図書館等ボランティア 12名
○サマーフェスティバル（8/22） 児童・生徒ボランティア20名
来場者960名
○子安市民センター祭り（10/17） 出演・出品 名

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R7	
(2)-1	授業づくりⅠ	意識 取組	95.2% 94.0%	
(2)-2	学習評価	意識 取組	91.7% 83.3%	
(2)-3	学習機会の確保	意識 取組	92.9% 76.2%	
(2)-4	学力調査結果の活用	意識 取組	75.3% 39.7%	
(2)-5	授業づくりⅡ	意識 取組	96.4% 90.4%	
(2)-6	総合的な学習の時間	意識 取組	87.2% 67.9%	

：前回より－10%

成果と課題（○：成果、●：課題）	
指標達成率	①国語 4年63.7/80＝ 80% 5年63.4/80＝ 79% 6年70.1/80＝ 88% 7年67.6/80＝ 85% 8年72.7/80＝ 91% 9年65.7/80＝ 82%
	①算数・数学 4年48.7/80＝ 61% 5年52.9/80＝ 66% 6年50.9/80＝ 64% 7年38.6/80＝ 48% 8年58.6/80＝ 73% 9年54.3/80＝ 68%
	②国語 4年87.3/85＝ 103% 5年89.2/85＝ 105% 6年92.6/85＝ 109% 7年85.9/85＝ 101% 8年89.4/85＝ 105% 9年72.6/85＝ 85%
	②算数・数学 4年88.8/85＝ 104% 5年74.3/85＝ 87% 6年88.6/85＝ 104% 7年89.0/85＝ 105% 8年84.9/85＝ 99% 9年73.8/85＝ 87%
③生徒 92.4/80＝ 115% ④教員96.4/90＝ 107% 実施頻度 I期 19% II期 34% III期 43%	
○経営計画の3年計画の初年度であるが、教職員の意識化及び具体的な取組が進んでいる。	
○Output型の学習に係る生徒の授業評価では、教科による結果のばらつきはあるものの想定以上に定着している。また、Output型の学習の効果を感じている生徒も多い。	
○生徒アンケート結果では、学力に係る重点項目のすべてにおいて85%を超える肯定的な回答を得ている。	
●家庭学習の実施状況は概ね6～7割の結果に止まっている。	

□ 生徒の授業評価

	めあての提示	説明	板書・ワークシート	学習の評価	授業の速さ	Output型学習の実施	Output型学習の効果	家庭学習
国語	95.8%	93.9%	93.8%	88.5%	90.0%	94.4%	84.7%	68.7%
社会	96.2%	93.8%	93.9%	86.8%	92.5%	93.0%	84.2%	67.3%
算数・数学	91.5%	92.4%	91.6%	86.0%	89.9%	85.9%	81.7%	73.3%
理科	96.3%	97.0%	96.0%	90.4%	95.0%	93.1%	86.6%	71.3%
音楽	97.0%	95.1%	90.4%	88.6%	94.9%	82.4%	80.0%	63.9%
図工・美術	96.8%	97.0%	93.9%	89.0%	94.5%	79.4%	78.7%	61.1%
体育・保健	95.7%	93.0%	86.8%	85.6%	93.0%	81.4%	76.8%	61.4%
技術	96.5%	95.9%	94.3%	89.9%	94.3%	68.4%	74.1%	58.2%
家庭	96.5%	94.6%	93.2%	89.4%	95.0%	86.5%	80.3%	62.9%
英語	88.1%	81.4%	87.4%	78.7%	83.7%	85.9%	76.3%	66.0%

2 学力の向上

指標) ①学力調査(思考・判断・表現)正答率 国語80 数学70 ③話し合い・ペアワークの態度 80%
②学力調査(基礎)正答率が目標値以上の割合 国・数各85% ④話し合い・発表等の実施 80%

重点) 1 思考力・判断力・表現力等を高める授業を行う
1) 話し合い・グループ活動など、児童・生徒主体のOutput型の学習の推進
2) 語彙力と説得力を高め、質の高い発表活動(プレゼンテーション)の実施
2 社会や生活につながる学びを創造する
1) 教科間で内容や活動、教員がコラボした授業の実施
2) 異学年での学習や活動、生徒や教員がコラボした授業の実施

主な取組と実施状況（●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他）

●当初申告で経営計画の重点事項に対する取組の申告を指示し、職員会議で授業観察の観点を提示
○3年と7年の理科でコラボ授業(4/20～24)、1年と2年の生活科コラボ授業(4/30)
○校内研究(研究授業と検証授業)に向け「学ビジット」や「わくわくOJT」等、教員が学び合う機会を設定
○「My学集」に毎日の家庭での学習を記録させ、家庭学習の見える化を実施
○どこでも学習を振り返ることができるよう学習カードをデジタル化(保体)
○8年生で4年生と2学期にフィールドワークを行う予定(社会)
○市学力調査の結果をドリルパークに反映させ夏休みの課題として実施

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R7	
17	学習指導(指導方法)	生徒 保護者	93.9% 85.1%	
15	学習指導(指導体制)	生徒 保護者	90.9% 84.8%	
19	学習指導(分かりやすい授業)	生徒 保護者	91.0% 76.5%	
18	学習指導(Output型の学習)	生徒 保護者	92.4% 67.4%	
21	学習指導(思考力・判断力・表現力)	生徒 保護者	88.9% 73.7%	
3	学習指導(コラボ)	生徒 保護者	85.6% 92.1%	
20	学習指導(家庭学習)	生徒 保護者	70.1% 79.0%	
16	環境整備	生徒 保護者	90.3% 87.2%	
14	適正な評価	生徒 保護者	85.8% 73.0%	

改善の方向性

○学力調査の基礎問題で目標値を超えた児童・生徒の割合が概ね80%を超えており、基礎学力の定着している割合が高いと考えられる。→**分かりやすい授業及び家庭学習を一体的に計画(授業Plus)**をさらに進め、**基礎学力の定着を一層図っていく**。
○1学期におけるOutput型の学習の実施がI期19%、II期34%、3期43%の授業で行われおり、Output型の学習による授業が定着したと考えられる。→**今後は、習得した知識・技能をOutputすることにより新たな知識・技能や見方や考え方を習得(使える力としてInput)する学習づくりを行っていく**。
○学習端末を活用してプレゼン能力を高める授業を引き続き模索していく。→**Output型の学習の一形態として、学習端末を活用して自己の意見や考えを表現することを通して、思考力・判断力・表現力を高めていく**。

□ Output型の学習の実施状況

(1) 学年別実施状況

	実施率(%)	時間(h)
1 年	16.1%	59.0
2 年	18.4%	70.7
3 年	14.2%	79.0
4 年	26.8%	147.6
5 年	33.2%	210.0
6 年	27.1%	136.2
7 年	45.8%	171.3
8 年	43.3%	169.1
9 年	44.0%	175.6

実施率：Output型の学習を実施した授業の割合

時間(h)：Output型の学習を行った時間の合計

	実施回数(回)	時間(h)
7 組前期	492	116.5
7 組後期	129	45.0
フレンズ	577	216.1
きこえとことば	206	55.5
きこえ	92	16.6

□ 学力調査の結果

(1)-1 市学力調査（令和 8 年度第 1 回・基礎）

	4 年		5 年		6 年		7 年		8 年		9 年	
	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率
国語	87.4%	79.7	89.2%	74.1	92.6%	73.2	85.9%	71.4	89.4%	74.4	72.6%	72.1
算数・数学	86.8%	79.6	74.3%	70.2	88.6%	73.7	89.0%	73.8	84.9%	73.1	73.8%	64.6

(1)-2 市学力調査（令和 7 年度第 2 回）

	4 年		5 年		6 年		7 年		8 年		9 年	
	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率	正答目標値以上	正答率
国語	87.3%	73.9	94.4%	76.8			87.3%	73.9	94.4%	76.8		
算数・数学	80.0%	60.3	75.6%	38.3			80.0%	60.3	75.6%	38.3		

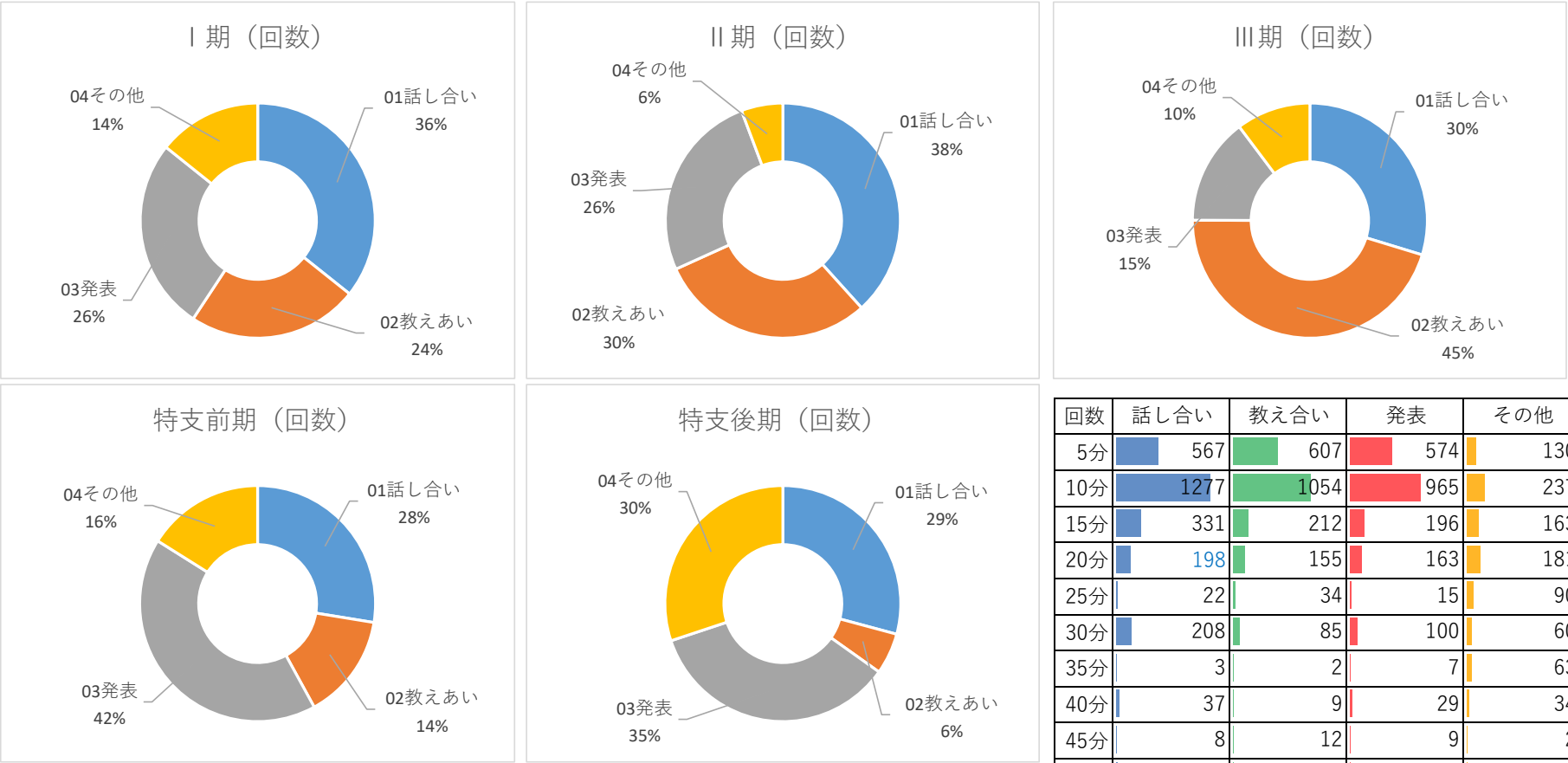
(2)-1 はちおうじっ子ミニマム（令和 8 年度第 1 回）

	4 年		5 年		6 年		7 年		8 年		9 年	
	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率
国語					41.1%	73.6	61.9%	78.6	62.3%	79.3	66.1%	81.0
算数・数学					52.9%	76.7	67.5%	80	71.5%	82.6	67.6%	82.5

(2)-2 はちおうじっ子ミニマム（令和 7 年度第 2 回）

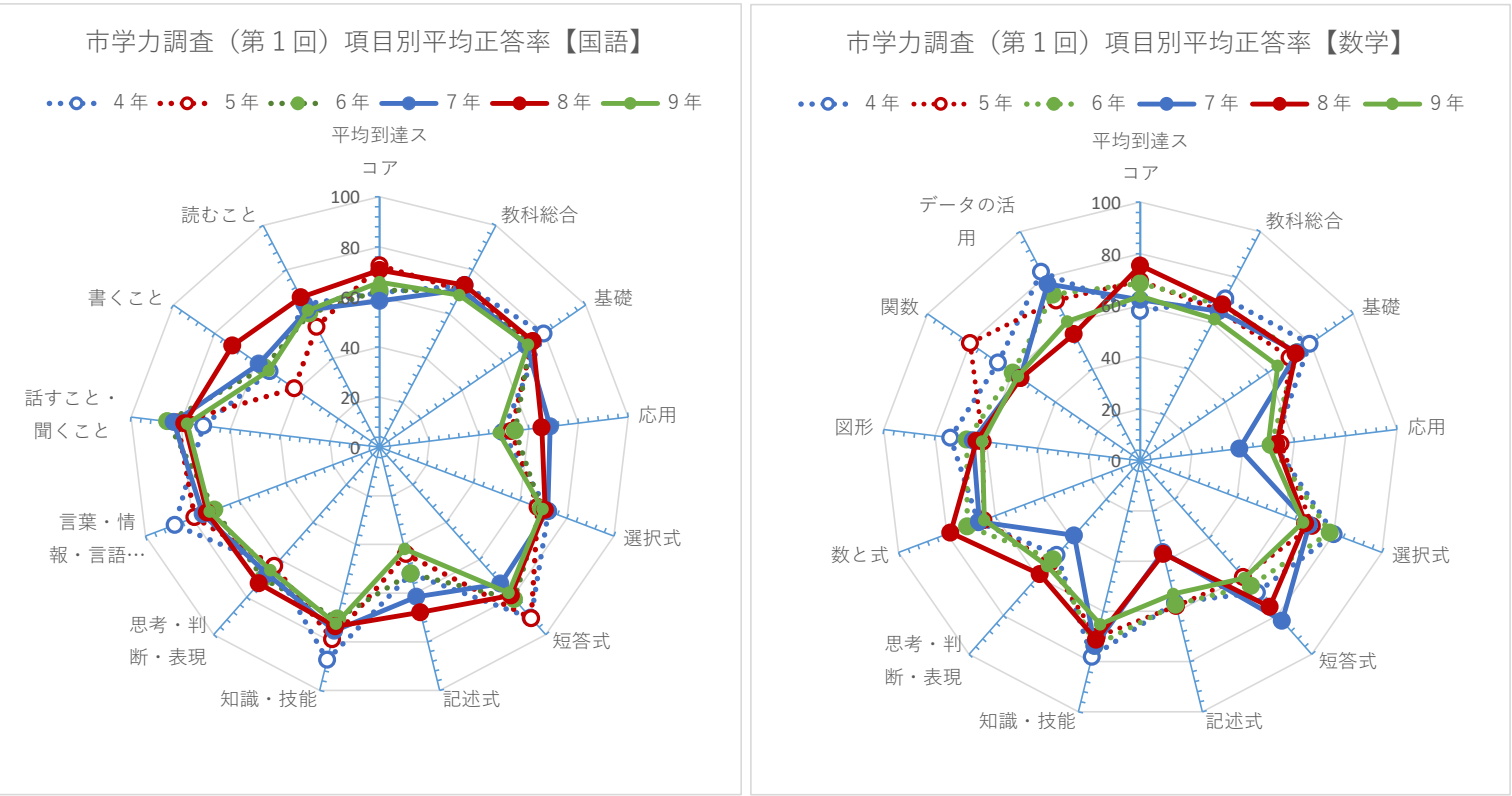
	4 年		5 年		6 年		7 年		8 年		9 年	
	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率
国語	82.9%	87.6	94.6%	92.8	92.5%	90.3	82.9%	87.6	94.6%	92.8	92.5%	90.3
算数・数学	84.0%	88.6	92.2%	91.8	91.0%	91.4	84.0%	88.6	92.2%	91.8	91.0%	91.4

(2) 形態別実施状況



回数	話し合い	教え合い	発表	その他	合計
5分	567	607	574	130	1878
10分	1277	1054	965	237	3533
15分	331	212	196	163	902
20分	198	155	163	181	697
25分	22	34	15	90	161
30分	208	85	100	60	453
35分	3	2	7	63	75
40分	37	9	29	34	109
45分	8	12	9	2	31
50分	20	6	8	4	38

(2) 市学力調査（第 1 回）項目別平均正答率



□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R7	
(3)-1	相談機会の多様化	意識	97.6%	
		取組	84.3%	
(3)-2	外部機関との連携	意識	96.3%	
		取組	72.8%	
(3)-3	いじめ防止	意識	97.6%	
		取組	91.6%	
(3)-4	生徒指導	意識	100.0%	
		取組	93.7%	
(3)-5	Q-U検査の活用	意識	70.8%	
		取組	38.9%	
(3)-6	特別支援教育	意識	92.7%	
		取組	86.6%	
(3)-7	登校支援	意識	90.0%	
		取組	66.3%	
(3)-8	キャリア教育	意識	87.8%	
		取組	78.0%	
(3)-9	安全教育	意識	96.3%	
		取組	84.1%	

：前回より－10%

3 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実

指標） ①学校満足度 ②相談機会への満足度 生徒90％・保護者80％ ③SDGsへの取組 生徒90％・保護者85％

- 重点）
- 相談機会の多様化を進める
 - 学習、いじめや不登校等、児童・生徒の課題に即した相談機会づくり
 - 個々の特性や課題に即した児童・生徒支援の組織的な推進
 - 体験的な活動を児童・生徒のキャリア形成につなげる
 - 体験活動のねらいにキャリア形成を位置付け系統的に実施
 - 社会とつながる学び及び生活に活かせる学びと体験活動の推進

主な取組と実施状況（●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他）

- 救命救急・アレルギー事故防止に係る初動対応のロールプレイングの実施（4/25）
○個別支援委員会の新設と特別支援と不登校問題への一体的な対応体制の構築（4月当初より）
●スクールカウンセラーが5人体制となり、毎日相談できる環境を整備（4月当初より）
○登校支援として、SSWやSC、高尾山学園、医療機関等と連携して個々の課題に即した対応を実施
○いじめ防止対策委員会、校内委員会を毎週水曜日6校時に実施
○いじめアンケートを実施し、いじめの未然防止及びトラブルの早期発見・早期対応を徹底
○地域の方の協力を得て「つながるーむ」の円滑な運営を実現
●つながるーむの開設時間や運用ルールを見直
○特別支援学級、特別支援教室、きこえ・ことばの教室の一体的な運営に向けて検討
●避難器具の操作に係る自主防災訓練を実施（8/28）
○地域の方15名程度をゲストティーチャーに招き、働くこと・生き方について考える機会を設定（1月）
○いじめ防止リーフレットの作成
○八王子西特別支援学校の先生を招き中学卒業後の進路について講演を実施
○アンガーマネジメント研修を実施（7年・9/8）

成果と課題（○：成果、●：課題）

指標達成率 生徒 ①85.5/90＝95% ②79.3/90＝88% ③87.9/90＝97%
保護者 ①84.4/85＝99% ②81.6/85＝96% ③90.8/85＝106%

- 新設した個別支援委員会が軌道に乗りつつあり、児童・生徒支援体制が整いつつある。
○登校支援では「つながるルーム」における別室指導が軌道に乗り成果をあげている。
●特別支援教育では、9年間の一貫した指導について一部課題があり、組織運営の在り方を見直す必要がある。
また、障害種別を越えた学級・教室の運営や共生社会の実現に向けた取組を検討していく。

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R7	
32	安全指導	生徒	94.6%	
		保護者	96.5%	
11	人権教育	生徒	90.7%	
		保護者	86.1%	
24	いじめ防止への対応	生徒	83.5%	
		保護者	77.1%	
35	生活指導（生活指導の取組）	生徒	91.6%	
		保護者	83.6%	
25	キャリア教育	生徒	89.1%	
		保護者	89.8%	
26	特別支援教育	生徒	78.3%	
		保護者	92.7%	
23	相談機会の満足度	生徒	79.3%	
		保護者	81.6%	
27	特色ある学校づくり（SDGs）	生徒	87.9%	
		保護者	90.8%	
22	学校満足度	生徒	85.5%	
		保護者	84.4%	

改善の方向性

○個別支援委員会が担う業務の重要性が高まっている状況を鑑み、更なる体制整備を進める。

→児童・生徒の個々の躰きや悩みの改善に対して組織的に対応する体制をさらに強化するために、個別支援委員会の組織上の位置づけを見直す検討を進めていく。

→また、不登校問題と特別支援教育を関連づけて対応し、課題改善を図ることも担っていくようにする。

○社会とつながる学び及び生活に生かせる学びを進める。

→キャリア部を核としつつ、学校の教育活動全体で「社会や生活につながる学び」の創造に向けた教育活動の実践を企画するとともに実践していくこと検討する。

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R7	
(4)-1	I 期 a（1・2 年）	意識 取組	42.6% 37.0%	
(4)-1	I 期 b（3・4 年）	意識 取組	45.5% 38.2%	
(4)-1	II 期（5～7 年）	意識 取組	72.1% 65.6%	
(4)-1	III 期（8・9 年）	意識 取組	62.1% 41.4%	

：前回より－10%

5 その他

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R7	
(5)-1	開かれた学校づくり	意識 取組	82.7% 48.1%	
(5)-2	地域運営学校としての学 校運営の充実	意識 取組	75.9% 25.3%	
(5)-3	PTA・青少対との連携・ 協力	意識 取組	84.8% 44.3%	
(5)-4	部活動の充実	意識 取組	75.7% 51.4%	
(5)-5	服務事故防止	意識 取組	97.5% 85.2%	
(5)-6	働き方改革の推進	意識 取組	90.4% 49.4%	
(5)-7	学校運営の世代交代	意識 取組	83.8% 51.3%	

：前回より－10%

4 義務教育 9 年間を通した一体的な教育活動の推進

中期重点) 1 各期の習得目標の確実な定着と義務教育 9 年間で切れ目なくつなぐ教育活動の充実

< 習得目標 >

- ① I 期 a 学習と学校生活の基盤を身に付ける ～学級を中心として～
② I 期 b 多様な学びや経験から学び方を身に付ける ～学年を中心として～
③ II 期 学びや経験を学校づくりにつなげる ～期・学校を中心として～
④ III 期 学びや経験を社会とつなげる ～学校・地域を中心として～

主な取組と実施状況（●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他）

- 学校経営計画については、学校だより、保護者会、朝会等を利用して、児童・生徒及び保護者に周知
●学校HPを活用した学校情報の発信（7月末現在アクセス数143,201回、590記事掲載）
●月例で時間外勤務の状況を集計した資料をもとに助言
□学校運営協議会委員と生徒会役員との懇談会を実施（5/14）
□青少対主催のクリーン活動に、児童・生徒及び教職員が参加（7/11）
●学校運営の世代交代に向けて、組織運営の在り方を検討（7月～）
●私費会計の決済の流れを変更（7月）
○クリスマスコンサートに音楽クラブが出演（12月）予定
○3年生、5年生、8年生に参加の地域と連携した防災学習を企画・運営（1月）予定

成果と課題（○：成果、●：課題）

- 生徒・保護者アンケートでは、一部の設問を除いて80%を超える肯定的な回答を得た。
○学校ホームページ等を活用して学校の状況を積極的に発信することができた。
○部活動改革については、ロードマップに沿って進めている。
●地域運営学校としての学校運営での取組については、教育活動の具体的な場面を想定した取組を検討するとともに、引き続き啓発をしていく必要がある。
●PTA・青少対との連携・協力においても、活動日時（週休日や勤務時間外）や教職員の業務の負担感から具体的な行動につながらないと思われる。
●各期の習得目標の定着に向けては着実に取り組んでいるが、達成状況を測る指標を設定する必要がある。

改善の方向性

- 各期の習得目標の定着の実現状況を測る指標づくりを行う。
→児童・生徒の習得状況を測る基準も設定する必要があり、検討を進めていく。
→9年間で切れ目なくつなぐための個々の習得状況の情報を引き継ぐ仕組みを検討していく。
○部活動改革ロードマップを踏まえて部活動再編を進める。
○働き方改革については、業務の効率化に向けて生成AIの活用に係るプロジェクトチームをつくり検討を進めていく。

(5)-8	学校予算（公・私費）の 適正な執行	意識 取組	83.3% 59.0%		
-------	----------------------	----------	----------------	--	--

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R7	
30	特色ある学校づくり(異年齢 活動)（再掲）	生徒 保護者	91.8% 93.7%	
29	小中一貫教育	生徒 保護者	83.8% 86.9%	
34	学校運営(教職員の協力体 制)	生徒 保護者	89.5% 74.0%	

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R7	
1	学校経営方針の周知	生徒 保護者	89.4% 92.6%	
34	学校運営(教職員の協力体 制)	生徒 保護者	89.5% 74.0%	
28	学校運営(教職員の熱心さ)	生徒 保護者	89.8% 85.7%	
31	地域連携 (再掲)	生徒 保護者	81.1% 94.5%	
33	情報提供	生徒 保護者	82.8% 94.5%	
12	部活動指導	生徒 保護者	73.8% 50.1%	

学校運営協議会からの指摘事項等

（最終報告で記載）